

## 概要

「見沼くらしっく館散策マップ」は、当館を拠点に史跡や社寺などを巡るための案内図です。

一帯は、地図に表しきれないほど多くの祠や石造物が残っています。虫や鳥が飛び交い、緑溢れる豊かな自然環境もたくさんあります。



坂東家の開発した加田屋新田

是非、自分だけの散策マップを完成させてください

### 【凡 例】

①～⑪ 主な見どころ



バス停



見どころの説明



信号機

## お願い

■どの見学場所も駐車場はありません。道幅も狭いため、徒歩又は自転車での散策をおすすめします。

■私有地には立ち入らず、マナーを守って見学をしてください。

■現況が異なる場合は御了承ください。



庚申塔

## 主な参考資料

- 『大宮市史』第3巻中・下、第5巻(大宮市、1969～1978)
- 『大宮の庚申塔』(大宮市教育委員会、1989)
- 『大宮の石造物(1)―東部地域編―』(大宮市教育委員会、1990)
- 『大宮をあるく』Ⅰ(大宮市教育委員会、1988)
- 『片柳のむかし』(片柳公民館、1988)
- 『さいたま市史料叢書2』神社明細帳編(さいたま市、2003)
- 『新編武蔵風土記稿』(雄山閣、1957)
- 『石造物に見る大宮の寺子屋』(大宮市教育委員会、1987)
- 『ふる里染谷』(大宮市染谷自治会、1987)
- 『見沼土地改良区史』(見沼土地改良区、1988)
- 『武蔵国郡村誌』(埼玉県立図書館、1953～55)
- 『札所めぐり～新秩父三十四所と足立坂東三十三所～』『あかんさず』第109号(さいたま市立浦和博物館、2015)



旧坂東家住宅見沼くらしっく館

## 施設案内

### 旧坂東家住宅見沼くらしっく館

さいたま市指定有形文化財(建造物)

旧坂東家住宅は、江戸時代の加田屋新田(現・見沼区)の名主を代々務めた坂東家の旧宅です。

自由に屋内を見学できるほか、様々な催しや講座などを開催しています。

- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 毎週月曜日(休日を除く) 休日の翌日(土・日曜日・休日を除く) 年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 無料
- 駐車場 8台

令和元年10月初版

## 歩いて楽しむ地域の歴史

# 見沼くらしっく館散策マップ



加田屋川



さいたま市PRキャラクター つなが竜スッ

## 旧坂東家住宅見沼くらしっく館

さいたま市見沼区片柳1266-2

電話048-688-3330 FAX048-688-3335



# 見沼くらしっく館散策マップ



1 よなじぞうそん  
**夜泣き地藏尊**  
子授け、夜泣きを治すと信仰されてきたお地藏様。以前は、ここで縁日が開かれました。垣根に囲まれています。  
\*寛保2(1742)年建立



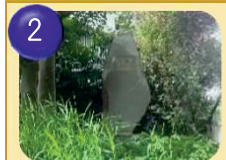
3 おしゃもじ様  
百日咳を治すと信仰された神様です。病気になるとしやもじを借りて飯を盛り、治ると新しいしやもじを奉納しました。



5 やまわらじんじや  
**山村神社**  
旧山村の鎮守。山村は、明治22(1889)年に周辺の村々と合併して片柳村に。続く片柳村は昭和30年に大宮市に合併するまで存続しました。



7 くまのじんじや  
**熊野神社**  
旧片柳村の鎮守。高台に位置し、石段の参道が特徴的です。力試しに用いた力石が奉納されています。



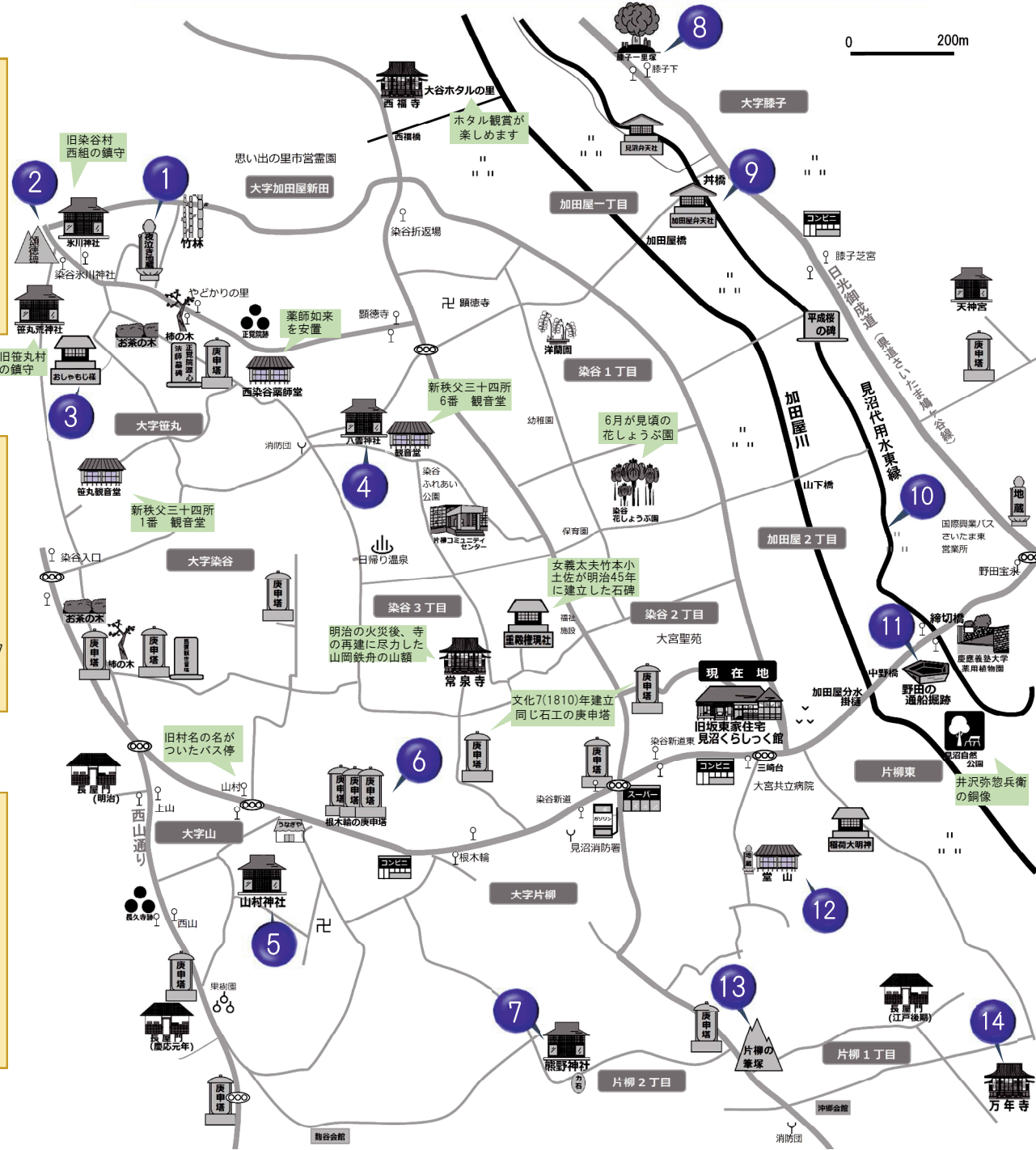
2 しょうとくひ  
**安田重美頌徳碑**  
寺子屋師匠を称えた碑。安田重美(1838-1895)は染谷村の名主でした。18ヶ村77名の名が刻まれています。  
\*明治28(1895)年建立



4 やくもじんじや  
**八雲神社**  
旧染谷村東組の鎮守。近年、万灯祭り「染谷の天王様」が復活し、毎年7月中旬に行われています。境内には庚申塔や戦争記念碑も。



6 ねぎわごんしんら  
**根木輪の庚申塔**  
村の人々の信仰により建てたものです。時代などにより形や絵柄が異なる庚申塔を見比べられるのにおすすめです。



8 さいたま市指定史跡  
**ひごこいちりづか  
藤子一里塚**  
江戸時代、将軍が日光社参に利用した日光御成道の道しるべです。日本橋から8里、岩槻へ1里に位置しています。塚上のエノキが目印。(1里=約3.9km)



10 みぬまだいようすいひがべり  
**見沼代用水東縁**  
享保13(1728)年から利用されてきた見沼田んぼの用水路です。堤に咲く桜や彼岸花を目当てに、春と秋はにぎわいます。



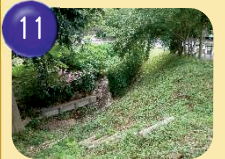
12 新秩父 どうやま  
**三十四所 7番 堂山**  
午年春の彼岸に開帳を行う観音霊場の一つです。本尊は馬頭観世音。開帳の時期以外は堂山(根木輪公会堂)脇の地藏や供養塔などが見られます。



14 ばんねんじ  
**万年寺**  
家康から20石拝領した名刹。代用水の開削工事では詰所になりました。井沢弥惣兵衛為永(1654-1738)の碑や巖松齋⑬の筆子塔など石造物が充実。



9 かたやべんでんじや  
**加田屋弁天社**  
見沼の水の守り神として祀られる坂東家の社です。見沼の新田開発がなされた江戸時代の元号「享保」の文字が刻まれています。



11 のだ つうせんぼりあと  
**野田の通船堀跡**  
見沼代用水の荷積み場の一つ、染谷河岸を管理していた中久喜家の私設の運河跡です。見沼代用水と加田屋川を行き来しました。



13 さいたま市指定史跡  
**かたやなぎ ふでづか  
片柳の筆塚**  
華道の大師匠でもある寺子屋の師匠屋巖松齋(1791~1863)が自宅脇の天満宮境内に築いた筆の供養塚です。花塚も。  
\*天保12(1841)年建立